

特産品のブランド化

宇治高校3年 丸山 雅生  
2年 濱田 祐次

授業の一環で吹屋ふるさと村を活性化する方法について考えています。吹屋の課題を見つけるためのインタビュー、グッズの考案、観光地マップの作成などのほか、地域の皆さんと「吹屋の活性化」について話し合いを行いました。そのなかで、観光地の魅力をPRすることが大きな課題であり、そのためにはブランド力の高い特産品が必要だと考えました。

高梁市の特産品をブランド化していくことが重要だと考えています。ブランド化に向けた方策などについてどのように考えていますか。また、他市町村などの連携や協力ができるのでしょうか。

【答弁】近藤隆則 市長

現在、吹屋地区を日本遺産に登録するために取り組んでいるところであり、市内の他の観光地についても魅力をもっと発信していく必要があると考えています。

11月に県下初めての取り組みとし

産婦人科について

高梁城南高校3年 難波 さやか

市内には子どもを産むことができず産婦人科がなく、妊婦は市外の病院で出産してはなりません。そのため、市は医療機関への連絡を短縮し搬送をスムーズに行うことができる「ママ・サポート119」を実施されています。この制度により、緊急を要する場合でも安心して子どもを出産することができます。

しかし、いつまでも高梁市で子どもが出産できないままではいいのでしょうか。里帰りをして自分の生まれた病院で出産したいと思っている人もいます。私自身も子どもを産むならば市内の医療機関で出産したいと思っています。将来的に産婦人科の先生を招く予定はないのでしょうか。

【答弁】近藤隆則 市長

市内には、妊娠初期から出産前までと出産後を診療してくれる産婦人科はありますが、子どもを産むことができる産婦人科はありません。

市内で分娩ができなくなった平成25年12月以降、産婦人科医師や医療関係者などから情報収集を行い、分

て、岡山高島屋(岡山市)で「備中たかはしフェア」が開催され、高梁市の名産品や特産品の展示販売が行われます。多くの人の目に触れることで、さまざまな意見や評判を直接聞くことができる良い機会になるのではないのでしょうか。また、ブランド化についてはさまざまな補助がありますので、制度を活用していただきたいと思っています。

今はまだブランド力が低いものを、いかにアピールしていくかがこれから大事だと考えています。日本全国には名前が付いたさまざまな特産品がありますが、それらは生産者の熱意があつての結果だと思えます。ブランド力を高めるためには、市がどれだけ支援ができるかという取り組みに加えて、生産者の力が非常に大きいと思います。一緒に取り組むことで、高梁のブランド力が上がってくると思います。

皆さんにも、高梁の素材を使用した商品を見て、食べて、そして自信をもって全国へPRしていただきたいと思えます。そのような情報発信についても、市と一緒に取り組んでいく必要があると考えています。

施設ができにくいものと努力しておりますが、24時間体制で対応するためには最低でも産婦人科医3人、助産師3人、看護師6人の体制が必要となり、金銭的な問題以上に人材の確保が難しくなっています。そのため、安心して分娩ができるように平成27年1月から「ママ・サポート119」をはじめ、皆さんの出産をサポートしています。

そのほかにも、妊娠・出産・子育て期のさまざまな不安や悩みにお答えする総合相談窓口「高梁版ネウボラ」を実施しています。「ネウボラ」とはフィンランド語で「アドバイスの場」を意味しており、安心して出産ができるよう担当保健師が妊娠期から電話や訪問など個別に関わりながら、産後については自宅に訪問し、赤ちゃんの育児に関することやお母さんの健康相談に応じる「赤ちゃん訪問」を実施しています。

また、経済的な支援として、18歳までの子ども医療費無料化に加え、「妊婦歯科検診」「産後健診」を自己負担なしで受けることができます。市内に分娩施設を設置する努力が続けますが、今後も安心して出産ができる体制を整えていきたいと思えます。

保育士の働き方改革

松山高校3年 瀬谷 健太  
3年 菅野 好

保育士の働き方改革を推進し負担を軽減させることが、市内の子育て環境の改善と若者の定住化につながるのではないのでしょうか。改善策として、企業内の託児所設置を支援したり、各企業に保育士を派遣する制度を整備したりできないかと考えています。企業内保育が整備され、既存の保育園の児童のうち相当の数が分散されれば、人手不足が解消し保育士の負担が軽減されると思います。

【答弁】近藤隆則 市長

入園希望の子どもは増加傾向にあります。入園調整をするともに、市外の園を利用している人もいるため、市内に待機児童はいません。

しかしながら、保育士などを基準に応じて配置していても、要支援児

への対応や出張・研修などにより配置基準以上の人員が必要で、人員の確保に苦慮しています。市としても、保育士の処遇改善を行い、人材の確保に努めています。

提案されているように、職場に保育所があることで保護者は安心して暮らすため、企業内保育は有効な手段だと思えます。国の制度に、「企業主導型保育」「事業所内保育」という保育制度がありますが、市内にはこの制度を使って保育所を設置している企業はありません。このような制度は、子育て支援と同時に従業員の確保にもつながるため、企業内保育を進めていきたいと考えており、今後ハローワークや企業と一緒に検討していきたいと思っています。

また、保育士を希望する人を対象に「保育士等養成奨学金貸付事業」を行っています。この制度では、市内で保育士として就職することで奨学金の返済が免除されます。このような制度を活用していただき、市内で保育士として働いていただきたいと思えます。



しぶや けんた 議員  
(松山高校3年)



すがの このみ 議員  
(松山高校3年)



まるやま まさお 議員  
(宇治高校3年)



はまだ ゆうじ 議員  
(宇治高校2年)



みむら まさと 議長  
(高梁城南高校2年)



なんば さやか 議員  
(高梁城南高校3年)